



小山田 剛 士  
(黎明親和会)

## 防災に対する基本方針は

### 減災の考え方にに基づき 人命を最重視

**問** 防災に対する基本方針は。

**答** 災害時の被害を最小にする減災の考え方にに基づき、たとえ被災したとしても人命が失われないことを最重視し、経済的被害ができるだけ少なくなるよう、様々な対策を組み合わせ、災害に備えていくべきものであると認識しています。

**問** 災害時の非常食や日用品などの備蓄状況は。

**答** 市で備蓄している飲料水やアルファ化米などの非常食は、当市の災害発生直後の想定避難者3,300人が3日間必要となる数量を備蓄しています。また、飲料水や非常食以外の備蓄物資の主なものとして、発電機、毛布、段ボールベット、マットレス、紙おむつ、生理用品などを備蓄しており、一定数を各避難所等に配備しています。

**問** 食料品や日用品などの供給に関する災害協定は締結しているか。

**答** 災害時の応援協定については、現在42の協定を締結しています。そのうち飲料水や食料、日用品などの物資関係については、民間事業者と12の協定を結び、優先的に供給してもらえることになっています。また、他の自治体とも水道や食料などの協定を締結しており、物資が不足する際は迅速に提供してもらえる体制を整えています。

**問** 十和田火山のような大規模災害時に中央病院が被災し、医療や病院事業の継続が困難になった場合の対応は。

**答** 病院単独での対応には限界があることから、国、県等が主導する医療支援の受入れや全国各地の災害派遣医療チームDMATによる災害救助活動の実施、他の地域の医療機関等による協力支援などにより医療の継続等を図ります。



中尾 利 香  
(自民公明クラブ)

## 小学校の統合計画は

### (仮称) 市立小中学校適正化等 懇談会を設置し検討

**問** 小中学校の統合計画は。

**答** 市立小中学校における今後の望ましい教育環境を推進するため、(仮称)市立小中学校適正化等懇談会を設置し、市民の意見を聴取した上で、適正規模と適正配置について検討していきたいと考えています。

**問** 十和田市の道の駅だからできる本市ならではの特色ある取組が必要と思うが、市の考えは。

**答** 全国の道の駅において、集客数増加のための様々な取組が行われていることから、他の事例なども参考に、引き続き指定管理者とともに様々なアイデアを出し合いながら、道の駅の魅力向上に努めていきたいと考えています。

**問** 子ども食堂への市の支援についての考えは。

**答** 元気な十和田市づくり市民活動支援事業が事業の立ち上げに活用できます。3年間の補助事業終了後の支援については、子ども食堂を含めた子供の居場所づくりの活動を促進するに当たり、団体からの意見等を聞きながら、市の子育て施策に取り組む中で、包括的に検討していきたいと考えています。

**問** 三本木霊園の今後の募集についての市の考えは。

**答** 現在一般墓地の新規使用者の募集は、年に1回の申込みとしています。しかし、ここ数年は募集数に対し申込数が下回る状況が見られるほか、合葬墓の運用開始により、墓じまいをし、一般墓地の区画を返還するケースもあり、空き区画が増加していることから、令和6年4月から通年で申込受付していきたいと考えています。